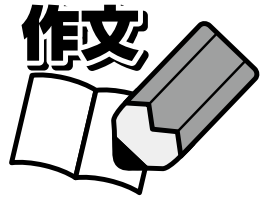


全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞



かぞくごはん

高崎市立北部小学校 1年 静 野 湊 斗

あさおきると、つくえにおとうとのいすがじゅんびされていました。いつもは、ぼくと、おとうさんとおかあさんのさんにんでたべるのにへんだなとおもっていると、おかあさんがちいさなおさらをもってきました。

「なにこれ。」

おさらのなかに、しろくてとろとろしたものがはいついてぼくはびっくりしました。

「これはごはんをつぶしているんだよ。きょうからあかちゃんもごはんをたべるよ。」

と、おかあさんがいいました。おかあさんが、ごはんをおとうとにたべさせると、おとうとはびっくりしたかおをしましたが、ごくりとのみこんでくちをすっていました。

「ぼくもたべさせたい。」

スプーンですくってときどきしながらたべさせると、ちいさなくちでいっしょうけんめいもぐもぐとたべているのがかわいくって、なんだかうれしかったです。

そのひから、かぞくみなでごはんをたべるようになりました。おとうとのごはんも、とろとろからつぶつぶになってやわらかいごはんになって、いまはぼくとおなじごはんをたべるようになりました。くちいっぱい、ごはんをいれてがんばってたべているかわいいおとうと。おいしいねっていいながらもりもりたべるおとうさん。おいしいごはんをつくってくれてみんなにあじはだいじょうぶかとききながらたべるおかあさん。よにんでたべるごはんは、さんにんでたべるときよりもたのしくて、とてもにぎやかになりました。ぼくは、たべかたのせんばいだからおとうとのおてほんになるようにたべるのはすこしきんちょうするときもあるけど、みんなでわらいながらはなしながらたべるごはんはやっぱりおいしいです。